

尾瀬 (北魚・湯之谷村)

■環境：高原 湖沼 森林
 ■対象：健脚
 ■期間：6月上旬～8月中旬

日光国立公園の一部であり、新潟・福島・群馬・栃木の4県にまたがる尾瀬は全国有数の探鳥地である。また、年間70万人を超える観光客が訪れる。

＜高原に夏鳥の音が響く＞

尾瀬は長さ6km、幅4kmに及ぶ「尾瀬ヶ原」と沼から湿原への移行が見られる「尾瀬沼」からなる。これらを取り巻くブナ、オオシラビソなどの森林と燧ヶ岳をはじめとする亜高山帯とともに、多くの鳥類が生息する魅力あふれる地域で、これまでに観察された鳥は100種を超え、個体数も非常に多くなっている。

＜尾瀬への探鳥ルート＞

冬4mの積雪がある尾瀬、その春は遅く、6月上旬のミズバショウのころからが探鳥シーズンになる。

尾瀬に行くには、夜行日帰りかそれ以上の日程になる。一般的な入山ルートは群馬県沼田から鳩待峠を経て尾瀬ヶ原へ行くか、大清水から尾瀬沼へのコースが有名だ。しかし新潟県から行ったら船で奥只見湖、尾瀬口、鷹之巣を経て尾瀬に至るコースや、六十里越えを経て只見町、檜枝峡、御池を通り沼山峠から尾瀬沼に至るコース、銀山湖から国道352号線で御池に出るコースもある。

＜沼山峠から尾瀬沼＞

尾瀬の自然を守るためシーズンの土曜、日曜はマイカー規制があり、御池からはバスに乗る。登山口からいきなりコマドリの音が響く。オオシラビソの森をゆっくり登ると、ルリビタキやメボソムシクイの音が絶え間なく聞こえる。一汗かくと沼山峠で、ここは亜高山帯の鳥、ウソ、キクイタダキ、ヒガラなどが見られる。峠から尾瀬沼は目の前だ。

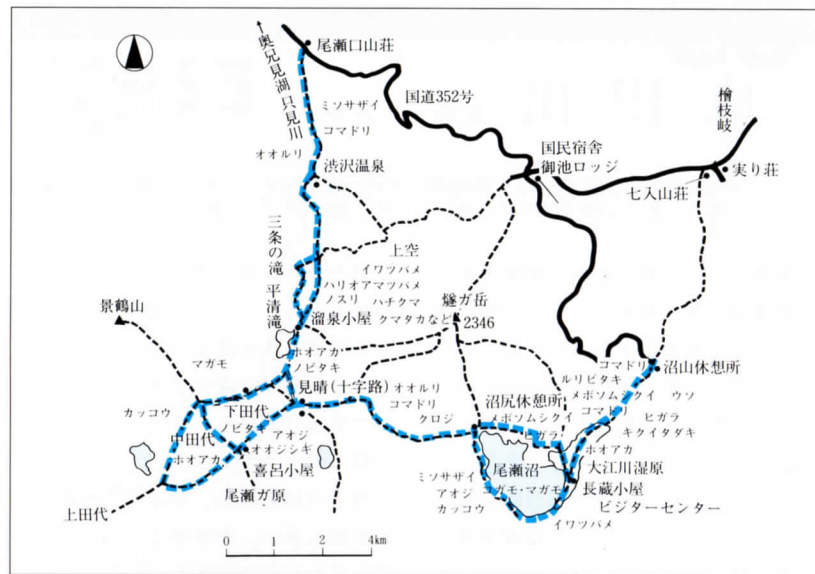
＜尾瀬口から尾瀬ヶ原＞

尾瀬ヶ原には尾瀬口から行く。林道沿いはミソサザイやオオルリ、コマドリなどがよく鳴く。

湿原に出るとミズバショウやニッコウキスゲに交じりヤチヤナギなどの低木が点在している。そこをソングポストにして草原性の鳥ホオアカやノビタキ、アオジが、上空ではオオジシギがさえずっている。また大型のワシ・タカ類ではノスリ、ハチクマ、クマタカなどが飛ぶこともある。

＜北方系の鳥の繁殖＞

尾瀬ではクロジやマガモなどが繁殖



している。そのため尾瀬沼では本州では珍しいマガモの親子が見られ、上空にはイワツバメに交じりハリオアマツバメの姿も見られる。

＜尾瀬特有の鳥＞

尾瀬ヶ原は標高が高く、高層湿原が広がり、草原性の鳥であるノビタキ、ホオアカ、アオジ、カッコウが多い。溪流沿いにミソサザイの個体数も多い。

高山の鳥イワヒバリ、カヤクグリは至仏山に登ると見ることができる。

尾瀬は探鳥以外にも、可憐な花や高山植物、登山や紅葉見物などさまざまな形で自然に親しめる場所である。マナーを守って楽しみたい。

(桑原哲哉)

メモ

- 交通・小出から奥只見ダム(バス1時間半)船40分で対岸、バスに乗り換え25分、尾瀬口山荘前下車、尾瀬ヶ原まで徒歩3時間。
- ・小出から国道352号線銀山平まで1時間、銀山平から御池まで2時間、バスに乗り換え25分で沼山峠、登山口から1時間で尾瀬沼。
 - ・小出から国道252号線で六十里越え、只見町を経て御池まで車で3時間。
- ☐ 船で行く場合は奥只見ダム駐車場。車の場合は御池駐車場。
- ・尾瀬の気温は平均でも平地より10度近く低い。夏でも防寒用にセーターやトレーナー、雨具など必要。
 - ・鳥獣保護地区特別地域として国立公園内でもあり、ゴミは必ず持ち帰ろう。
 - ・他のコースを知りたい人はガイドブックを参照されたい。